

令和元年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>1. 生徒の実態の変化を踏まえた、生徒一人ひとりの能力やニーズに応じた教育課程の編成に取り組む。</p> <p>2. 基礎学力の確実な定着と、主体的に学ぶ意欲を高めることを目指した学習指導や授業改善を推進する。</p>	<p>1. すべての生徒のニーズに応える授業を目指し、新学習指導要領に向けた教育課程作成の準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲ある生徒がさらにその力を発揮できるような環境を整える。 <p>2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の利活用を進める。 	<p>1. 令和4年度入学生に向けた新教育課程編成の準備に入る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 移行期間における基本方針を踏まえ、可能な範囲で新学習指導要領による取組みを推進する。 学び直しが必要な生徒に対する支援体制の検討を行う。 学習意欲の高い生徒のニーズに応じるため、様々な学びの機会を増やす。 授業時間の確保について検討する。 <p>2. 生徒がいろいろな場面で「見てわかる」視覚的な支援を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業におけるICT機器の利用について、各教科で検討を進める。 	<p>1. 新教育課程編成にむけた検討をグループや教科で進めることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度の年間計画で授業時間を確保することができたか。 <p>2. 授業や教室の環境整備を通して「見てわかる」支援を行うことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業においてICT機器の利活用頻度が上がったか。 	<p>1. 新教育課程表の検討・提案母体を学習支援グループに決定した。各教科では新学習指導要領の研究を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3～4学年の生徒を対象とした就職指導期間の時間割を見直し、授業時間数を増やすことができた。 <p>2. 「ICTの活用や学び直し学習を取り入れた授業づくり」を今年度のテーマとして、定例の授業研究会を2回行った。他に、G-Suiteの研修会を2回行い、ICTの利活用がさらに多くの授業場面でなされるようになった。</p>	<p>1. 次年度は当初に新教育課程表の大枠・基本方針を提案・決定し、各教科の科目・学年配置等の検討に入りたい。学習支援グループと教科の意見交換を丁寧に行い、生徒のニーズに応え、生徒の力を伸ばすことができる教育課程表の編成に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時間数を確保するため、年間計画の検討を継続していく。 <p>2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、ICT利活用の研究を含めてさらに進める必要がある。定例の授業研究会だけでなく、日頃から教科の枠を超えてICT利活用のアイデアを共有できるような環境をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> BYOD(生徒所有のスマートフォンの活用)をどのように進めるか検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じた補習の実施など、効果的な指導が行われていた。今後も学習指導の充実を図ってほしい。 学力向上、豊かな人間性の育成、生きる力の獲得に向けた取組みを今後も継続してほしい。 ICT機器や校内WiFi環境等を活用し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育ててほしい。 	<p>1. 新教育課程へ向けての準備を始めた。各教科で新しい学習指導要領の研究を行い教科内での共通理解を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事等の精選を行い年間授業時数を10時間程度増加させることができ、より充実した学びの環境を整えることができた。 <p>2. 2回の授業研究会に加え、ICTに関する校内研修会を実施することで、職員が授業でICTを活用する場面が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒全員にG-suiteのアカウントを付与し、さらなる活用に向けての環境を準備できた。 	<p>1. 新教育課程の策定にあたって、どのような生徒を育てたいかを明確にし、職員の共通理解を得られるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時間数の確保と同時に1コマの時間の有効的な展開の仕方も生徒の実情に合わせて取り組んでいく。 <p>2. さらなるICTの活用に向けて、授業で貸与するタブレット端末以外の生徒所有のスマートフォンやPCを活用することができるような工夫ができていければよい。</p>
2 生徒指導・支援	<p>1. 基本的生活習慣の確立と社会的規範意識の醸成を図り、社会の一員としての責任を自覚させるとともに良好な人間関係を築く力を養う。</p> <p>2. 行事や部活動への積極的・主体的な参加を促進し、自</p>	<p>1. 社会的規範意識の醸成を目的に、社会の一員としてルールを守ることの大切さの指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生徒を注意深く見守り、すべての生徒にとって居心地の良い環境づくりを行う。 <p>2. 自己肯定感・自己有用感を感じることができる</p>	<p>1. 生徒との良好かつ相互に信頼しあえる人間関係を構築し、生徒指導を円滑にすすめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への主体的な参加を促し、スマートフォンの使用や飲食の禁止について粘り強く指導していく。 上履きの着用について機会をとらえて指導していく。 生徒の情報を職員間で共有し、SSWやSCとの連携を強め、人権相談窓口など相談体制を充実 <p>2. 様々な視点で生徒の活動を観察</p>	<p>1. 生徒との信頼関係を築き、スマートフォンや上履きの指導を効果的に行うことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を持つ生徒について職員間で共通認識をもって指導に当たることができたか。 <p>2. 様々な視点で生徒の活動を観察</p>	<p>1. 生徒との信頼関係を築いた上で指導にあたることができた。スマートフォンや上履きについては、1、2年生に対しては徹底させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員間の情報共有に努め、外部機関との連携も取りながら円滑な指導ができた。 <p>2. 生徒の状況をよく把握し、職員間の</p>	<p>1. 指導に乗らない特定の生徒については、様々な角度から指導方法を検討して、職員全体で粘り強く指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も教育相談については、難しいケースが予想されるので生徒支援の具体的な方法を理解できるような研修を一層充実させる。 <p>2. 生徒の状況をよく把握し、職員間の</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な生徒の状況について適切な支援を行うことができるよう職員の支援体制や校内の環境等を整備していただきたい。 いじめの防止に向けて、情報端末、SNSの適切な使用方法や人権に係る指導を充実させてほしい。 夢や希望をもって生徒が学校生活を送ることができる 	<p>1. 一人ひとりの生徒と職員との間に信頼関係を築くことができ、特に1年生については学校生活上のルールを徹底させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別に支援が必要な生徒についての情報を職員間で共有することができ、場面に応じた適切な指導を全体で行った。 <p>2. 部活動をはじめとした生徒の自主的な活動を通して、一人ひ</p>	<p>1. 授業中のスマートフォン使用については今後のBYODを活用した授業展開との関係も考慮しながら、適切な指導方法について職員の共通理解を得ていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手の職員の増加に伴い、生徒支援や教育相談に係る基本的な事柄についても、情報共有ができるよう職員研修を進める。 <p>2. 定時制にとっての適切な部活動の在り方</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		自己肯定感・自己有用感を高め、学校生活の充実を図る。	よう、目立たない所で頑張っている生徒を「茅ヶ崎賞」として表彰する。	させる。 2. 全職員で生徒の日常の様子を見守り、「茅ヶ崎賞」候補者の推薦を行う。	し「茅ヶ崎賞」候補者の推薦を行うことができたか。	情報共有を密にすることで「茅ヶ崎賞」にふさわしい生徒を推薦した。	2. 生徒がより自己肯定感、自己有用感を持つことができるよう部活動の活性化を目指す。	ように、今後も日々の指導を大切に行ってほしい。	とりの生徒が自己肯定感を十分持つことはできなかった。	について理解を深めていく。
3	進路指導・支援	1. 生徒が自らの進路を考えながら人生設計を行っていき幅広い能力(キャリア形成能力)が身につく進路指導を行う。	1. 生徒が自分自身の進路について自主的に考えられる能力(キャリア形成能力)を育て、特に一人の社会人としての意義について考えさせる。 ・「ちていカフェ」(NPO法人との協働事業による校内カフェ)を軸としたキャリア支援事業を立ち上げる。	1. 生徒一人ひとりが明確な進路希望をもてるような指導を行う。 ・就職の面接指導では一人ひとりの生徒の実情に合わせたきめ細かな指導を行う。 ・「ちていカフェ」の活動を推進し、NPO法人と協働したキャリアサポートワークショップを行う。また、キャリア相談コーディネーターによる進路、就労相談を行う。	1. 面接指導を丁寧に行って、生徒が主体的に面接に臨むことができたか。 ・「ちていカフェ」の周知、案内を行い、参加する生徒が定着をしたか。	1. 地域の企業や事業所の協力を得て、生徒のキャリア形成に係る講演会を定期的実施することができた。 ・就職希望の生徒に対して、きめ細やかな指導を行うことができた。 ・NPO法人と協働して「ちていカフェ」を3回実施し、内容もキャリア支援につながるような企画を実施した。関心を持って参加する生徒が増えた。	1. 進路指導に関しては1年次より計画的・段階的な指導を継続していくことが必要である。特にインターンシップ等の生徒の就業意識を高めさせる取組みを充実させる必要がある。 ・「ちていカフェ」の実施回数を増やし、NPO法人の持つ資源・ネットワークを有効に活用していく。	・進路指導に係る情報提供等については、保護者にとって理解しやすいものとなるよう工夫していただきたい。 ・細やかな進路面談について一層充実させてほしい。 ・「ちていカフェ」は、様々な人々との交流の場となっており、貴重な機会である。今後もぜひ継続してほしい。	1. 定期的に進路講演会を実施し、生徒一人ひとりが自分の将来について考えることができるようになった。 ・ちていカフェを定期的に行い、学校や企業とは別の視点で、生徒へのキャリア教育を行うことができた。 ・限られた時間の中で講演会やカフェの実施回数を確保することが難しい。	1. 生徒に対する取組みだけではなく保護者に向けた説明会等の工夫も考えていく。 ・様々な課題を持つ生徒に対する就労支援のような仕組みもさらに工夫していきたい。
4	地域等との協働	1. 生徒の「生きる力」を育むことを目的に、学校と家庭、地域が一体となって生徒の教育に当たるしくみづくりを行う。 2. 相互信頼に基づいた学校・家庭・地域の連携関係を形成する。	1. 学校運営協議会の活動を活用しながら、生徒に、自分たちも地域の一員であることの自覚を促すとともに、地域貢献活動等を通して、地域と連携する。 2. 近隣の地域社会や企業との協働による学校づくりに取り組む。	1. 学校運営協議会の意見を聞きながら、より効果的な地域貢献活動としての地域清掃のあり方を検討する。 2. 学校運営協議会の定時制部会と相談しながら、文化祭等の機会を利用した地域連携を行う。	1. 生徒が地域とのかかわりを意識できるような形での地域貢献活動ができたか。 2. 地域との連携を文化祭などの学校行事の場により多く取り入れることができたか。	1. 地域清掃活動について十分な検討や学校運営協議会との連携を図ることができなかった。 2. 文化祭や卒業生を送る会をPTAと連携して実施した。ちていカフェをNPOや大学生と連携して実施した。	1. 夜間定時制の学校における効果的かつ現実的な地域貢献のあり方について議論を深める必要がある。 2. 各行事において地元自治会と連携できる部分がないか検討する。	・防災への取組みについては、今後も地域と学校の協力体制を継続してほしい。 ・地域の中での茅ヶ崎高校の存在は大きい。今後も地域との連携の充実を図ってほしい。	1. 夜間定時制の特性を考えると従来のような地域清掃のような形態での地域貢献活動は難しい。新しい形の地域との協働の在り方を検討する必要がある。 2. 地域の中で本校定時制が果たしていくべき役割について相互理解を十分深めることができなかった。	1. 学校運営協議会と連携した取組みとして、定時制生徒が主体的に取り組める地域貢献活動の内容を検討していく。 2. 生徒の実態に即した学校(生徒)と地域との関わり方についてより現実的な方法を学校運営協議会の定時制部会で考えていく。
5	学校管理 学校運営	1. 風通しのよい職場づくりを通じて職員の事故・不祥事を未然に防止する。 2. 防災用備品、食料の整備と防災教育内容の充実及び地域の防災施設としての機能を充実させる。	1. 職員間のコミュニケーションを密にし、事故・不祥事防止に引き続き取り組む。 2. 全日制と協力しながら、必要な防災教育、防災管理体制を推進する。	1. 月に一回の事故防止会議の開催を通して、具体的な事故事例の共有化を図り、職員による主体的な取組みを推進する。 2. 昨年度工夫した防災訓練の実施方法をさらに効果的なものになるよう検討し、DIG演習と合わせて取り組む。	1. 事故防止会議を定期的開催することができたか。 2. 生徒が主体的に防災訓練に参加し、防災に対する関心を高めることができたか。 ・DIGを通して生徒の防災意識が高まったか。	1. 事故防止会議を毎月開催した。 2. 夜間における地震・津波の発生を想定した実践的な避難訓練及び応急手当に係る講習を実施した。 ・DIG演習については、地歴公民科の授業において実施し、生徒の防災意識を高めることができた。	1. 県教育委員会作成の啓発・点検資料を説明する時間しか取れなかったため、演習や職員相互のディスカッション等を取り入れたい。 2. 生徒に緊張感を持たせる実践的な避難訓練を今後も実施していきたい。校舎の老朽化も視野に入れ、大地震発生の際の避難ルートを変更を検討する必要がある。 ・DIG演習も引き続き、実施していく。	・不祥事防止については、信用される学校を目指して、今後も研修等を充実させてほしい。 ・防災訓練は生徒の命を守るうえで非常に重要なので、ぜひ効果を高めながら継続してほしい。	1. 県教育委員会作成の啓発・点検資料については毎月すべての職員に読んでもらい、記載内容を説明することができた。 2. 地震に対する訓練であったが、台風のシーズンが近いこともあって総合的な視点から防災について考えることができた。	1. 職員一人ひとりが事故を起こさないという決意をもって職務に臨めるよう改めて意識をしていく。 2. 今後の校舎耐震工事に向けて、新たな避難経路や方法の検討を始めていく必要がある。災害発生時に、帰宅させるか校内に滞留させるかの判断も夜間であることを踏まえマニュアルに取入れていく工夫が必要である。

